

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 42 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2016 年 8 月 25 日 (木) 13:30~15:15
2. 場 所 (一社) 原子力安全推進協会 D 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 中川 (幹事), 長谷川 (広木代理), 矢野, 石井, 伊藤, 上坂, 松藤, 一森, 松村, 新井, 吉成, 遊佐, 渡部 (中川代理), 下家 (16 名)
(欠席委員) 大木, 橘高, 望月, 北条 (4 名)
(常時参加者) 本田, 天間, 伊藤

4. 配布資料

- | | |
|---------------|---|
| 資料P14SC-42-1 | 第41回PLM分科会議事録案 |
| P14SC-42-2 | 「原子力発電所の高経年化対策実施基準:2016 (追補1)」の公衆審査結果 |
| P14SC-42-3 | 経年劣化メカニズムまとめ表2017年版 (追補2) 案の確認状況 |
| P14SC-42-4-1 | PLM実施基準2015 (追補1~2を含む) の誤記確認状況 |
| P14SC-42-4-2 | PLM実施基準2015 (追補1を含む) 本体の誤記対応案 |
| P14SC-42-5 | PLM実施基準講習会のアンケート結果 |
| P14SC-42-6-1 | PLM実施基準2015英訳の要望調査報告 |
| P14SC-42-6-2 | PLM実施基準2015の要約案 |
| P14SC-42-7 | PLM実施基準の改定のスケジュール |
| P14SC-42-参考-1 | International Conference on Maintenance Science and Technology (ICMST 2016)のabstract : Toward Effective Nuclear Power Plant Ageing Management |

5. 議事

会議に先立ち, 出席委員は 16 名で, 定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-42-1)

第 41 回 PLM 分科会議事録 (案) が紹介され, 一部誤記を修正した上で発行することが承認された。

(2) PLM実施基準2016年版 (追補1) の公衆審査結果 (P14SC-42-2)

公衆審査の結果, コメントがなかったことが報告された。

(3) 経年劣化メカニズムまとめ表2017年版 (追補2) 案の確認状況 (P14SC-42-3)

誤記確認のスケジュールが確認された。来年2月のシステム安全専門部会で附属書Aを含めた誤記確認結果を報告する予定。

(4) PLM実施基準2015（追補1～2を含む）の誤記確認状況（P14SC-42-4-1,2）

2015年版誤記確認の状況を確認した。

現時点での本文の誤記確認結果が報告され、正誤表発行の対象は3件あり、システム安全専門部会で報告することとなった。

(5) PLM実施基準講習会のアンケート結果（P14SC-42-5）

アンケートの集計結果が報告された。さまざまなレベルの受講者がいるため、理解度に差があるのは仕方ないという意見があった。全体的に時間が足りない中で、評価例、耐震評価の時間を多く取っておいてほしいという意見が多かったため、次回講習会を開催する際には参考にすることとなった。

(6) PLM実施基準2015英訳の要望調査報告（P14SC-41-6-1,2）

標準活動基本戦略タスクでPLM実施基準2015がニーズの高い標準として標準委員会に提案されることとなったため、英訳の要望を見直した。日本、米国のように自国で経年劣化に特化した基準を作って経年劣化管理を実施している国は少ない。I-GALL、US-GALL、PSRに基づいて実施している国が多く、その中で日本の仕組みを紹介するのは意義があるという意見があった。

現時点で用意されている2015年版の英訳について、英訳のレベルや規格の英語になっているかという質問があり、2008年版と同様の語句の使い方を行っていることが報告された。

また、PLM実施基準2015の要約版及びその英訳版が紹介された。

(7) スケジュール（P14SC-41-7）

NRAの技術評価は未定だが、実施されるという前提でのスケジュールが報告された。

SA設備の評価について、評価の要否、評価期間について質問があった。評価は必要だが、期間の設定については電力が説明性を考慮して設定していると回答があった。また、SA設備固有の点検等の考え方というものはなく、それは学会ではなく電力大で議論すべき内容という意見があった。

(8) その他

ICMST2016（中国）でPLM基準を紹介することになった。

6. 今後のスケジュール等

次回分科会は11月14日（月）に原子力安全推進協会で開催することで仮決定した。

以上